

都市再生整備計画(第4回変更)

いまよう そうかしゆくちく
今様・草加宿地区

埼玉県 そうかし
草加市

平成20年11月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	埼玉県	市町村名	草加市	地区名	イマヨウ・ソウカシユクテウ 今様・草加宿地区	面積	90 ha
計画期間	平成17年度～平成21年度	交付期間	平成17年度～平成21年度				

目標
大目標・歴史や文化、景観資源を活かした個性と活気にあふれた都市軸の賑わいの創出と魅力ある地域拠点の形成
目標①綾瀬川沿いの景観資源を活かした魅力ある地域拠点の形成。
目標②旧街道の歴史を感じ、ゆったり楽しく歩ける安全で快適な街づくり。
目標③今様・草加宿事業の推進に向けた市民参加と協働の促進。

目標設定の根拠
まちづくりの経緯及び現況 ・旧日光街道第2宿場として来年開宿約400年を迎える草加駅東口の旧町地区は、本市の中心市街地として発展してきた。平成4年に完成した駅前再開発事業を契機として、駅前大型店舗への客の集中やモータリゼーションの進展による商業施設の郊外化により、近年は旧街道商店街の空洞化が進み、また、商業地域内への高層マンションの進出が著しい状況にある。 ・これら街なみや環境の変化に対し、地元では新たなまちづくりの機運として市民会議やまちづくり協議会等の組織が設立され、環境改善や商業振興のための話し合いや活動が活発化してきている。さらに、市では、駅周辺地域の安全で快適な歩行空間の確保や市街地の防災機能の向上を目的とした街路網計画に基づく道路拡幅を提案しており、これを機にまちづくりの関心が高まっている。 ・また、本市のシンボルゾーンである草加松原遊歩道の対岸は、綾瀬川左岸プロジェクト地区として市民文化交流の拠点整備を予定し、昨年までに約6haの土地を市が取得した。 ・こういった中で、本市では平成15年度に全国都市再生モデル調査事業の認定を受け、様変わりした街なみをもう一度見つめ直し、現代の新たな視点で旧街道地区から草加松原に至る賑わいの創出や地場産業の活性化を図るため、町会や商店街等の各種市民団体が組織された街なみ・川なみ「今様・草加宿」実行委員会が発足し、まちづくりのきっかけとなるためのイベントを実施したところである。 ・今年度は、実行委員会のメンバーに新たに公募委員を加えて拡充したところであり、さらに産業界との連携も図りながらまちづくりを進めていく予定である。
課題 草加駅東口旧町地区から草加松原シンボルゾーンに至る一帯を、回遊性をもった賑わいと魅力ある都市軸として再生することが課題であり、市民や観光客を誘致できる魅力の拠点づくりと景観に配慮した街並み誘導を図ることが必要である。 ・中心市街地として空洞化の著しい旧町商店街を市民や商業者と協働して賑わいを復活することが求められており、かつての草加宿の面影を偲ばせる町屋づくりや土蔵等を活用しながら魅力のスポットづくりや安全で快適な歩行空間を確保することが必要である。 ・草加松原寄りの旧街道沿いにはせんべい店が比較的多く集積しているが、草加駅から距離があり売上も伸び悩んでいることから、皮革やゆかたと共に草加を情報発信できる拠点を整備し、まちの活性化を図ることが必要である。 ・草加松原遊歩道は市民の憩いの空間として広く親しまれているが、対岸の綾瀬川左岸地区を地域の交流や防災の拠点として整備することにより、草加駅や松原団地駅からの利用者の誘致と地域の防災性を高めることが必要である。 ・今様・草加宿事業の推進に向けて、新旧住民の地域へのアイデンティを高め、まちづくりへの参加意識の醸成を図ることが必要である。
将来ビジョン(中長期) ・草加市基本構想では、「快適都市」をテーマに、駅周辺地区は中心市街地としての活気と賑わいのあるまちづくりを掲げられており、また、ものづくりを大切にするプロジェクトとして、生産活動の活性化や商業集積の整備・活性化、情報化と伝統産業の全国発信の場づくりが位置づけられている。また、心地よい風景をつくるためのシンボル・プロジェクトとして、草加松原のシンボルゾーンを活かした「草加松原・綾瀬川左岸」プロジェクトが位置づけられている。 ・草加市都市計画マスタープランにおいて、草加駅周辺は本市の都市核として、旧宿場としての歴史的特性を踏まえ魅力的な都心の形成が方針となっており、草加松原周辺は文化核としてシンボルゾーンにふさわしい市民文化交流の拠点整備や都市景観の誘導が位置づけられている。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
1. 広場公園利用者数	人／日	綾瀬川左岸広場公園の利用者数(12h)	綾瀬川左岸広場公園の利用者の増加を見込む。	400	H16年度	500	H21年度
2. 来街歩行者数	人／日	旧町地区と草加松原地区を結ぶ結節点付近の歩行者数(12h)	旧町地区と草加松原地区との市民、観光客の回遊性を確保するための指標として歩行者の増加を見込む。	256	H16年度	300	H21年度
3. 満足度(印象)	%	来街者における旧町商店街の満足度(印象)	観光客や来街者の商店街の満足度アップをめざす。	36	H16年度	43	H21年度
4. 今様・草加宿の認知度	%	来街者における今様・草加宿の認知度	事業の推進に向けて、認知度アップをめざす。	30	H16年度	40	H21年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
整備方針1(日常的に賑わいが創出でき、災害時にも利用できる交流・防災拠点の形成) ・綾瀬川左岸地区において、河川管理者との連携による河川環境を活かした賑わいの交流拠点を創出するとともに、災害時には防災機能を備えた広場公園を整備する。 ・公園整備に先立ち、綾瀬川左岸護岸を植栽(シバザクラ)し、市民や観光客の誘致のきっかけづくりを行う。 ・来訪者の誘導のために、旧町地区や路地、草加松原ゾーンに案内の道しるべを設置する。		地域生活基盤施設(基幹事業／広場公園)、地域生活基盤施設(基幹事業／道しるべ設置)、地域創造支援事業(提案事業／マップ作成)、事業活用調査(提案事業／綾瀬川左岸地区基本計画策定調査)、まちづくり活動推進事業(提案事業／ライトアップ事業)、綾瀬川左岸護岸植栽(関連事業)
整備方針2(歴史を感じる安全で快適な道づくり) ・草加駅から旧街道や草加松原ゾーンへの回遊性をもった快適な散策路を整備する。また、スポットに来訪者の休憩や交流のための街角スペースを確保する。 ・土蔵等の歴史的建物を修復し、奥の細道や日光街道にちなんだ資料館や物産館として来街者の誘致を図るための建物活用調査を実施し、効果的な活用方法を推進する。 ・草加せんべいをはじめ、皮革等の地場産業の情報発信や名所・史跡の散策路、せんべい店や個性的な店舗、商店街を紹介した今様・草加宿マップを作成し、集客や賑わいの足がかりとする。 ・来訪者の誘導のために、旧町地区や路地、草加松原ゾーンに案内の道しるべを設置する。 ・草加駅東口停車場線の整備完了にあわせ、草加駅駅前広場をユニバーサルデザインに配慮した安全で快適な歩行空間として整備する。		道路(基幹事業／歴史散策路整備【電線地中化】)地域生活基盤施設(基幹事業／街角広場、あじさい公園、歴史散策路休憩スポット)、地域生活基盤施設(基幹事業／道しるべ設置)、高質空間形成施設(基幹事業／歴史散策路整備)、高質空間形成施設(基幹事業／草加駅東口駅前広場バリアフリー化整備)、地域創造支援事業(提案事業／マップ作成)、事業活用調査(提案事業／歴史的建造物活用調査)、まちづくり活動推進事業(提案事業／ライトアップ事業)、草加市景観計画・景観条例作成事業(関連事業)
整備方針3(市民意識の醸成と計画策定プロセスへの参加) ・新旧住民と協働して綾瀬川左岸エリアの計画や旧道の街並み空間のあり方等を検討していく中で、市民の草加への愛着や誇りを醸成し、今様・草加宿事業の実現に向けた機運を盛り上げていく。		事業活用調査(提案事業／綾瀬川左岸地区基本計画策定調査)、草加市景観計画・景観条例作成事業(関連事業)

その他	
○地域再生計画の認定 平成16年6月に地域再生計画の認定を受け、同年12月に国や埼玉県、「今様・草加宿」実行委員会役員等で構成する特定地域プロジェクトチームを設置した。現在、このチームから支援を受けて地域再生、活性化のための施策等を検討しており、さらに賑わいのための効果的な整備メニューの充実を図る予定である。	
○街並み景観形成の誘導 魅力的な景観の創出に向けて、「今様・草加宿」実行委員会や地域のまちづくり協議会と旧道や綾瀬川左岸地区の街並みや景観誘導のあり方について協議し、地区計画や景観計画を検討していく予定である。	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	6,895	交付限度額	2,758	国費率	0.4
---------	-------	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象 事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
道路		(仮称)今様・草加宿歴史散策路【電線地中化】	草加市	直	L=80m	20	21	20	20	20	20	20		20
公園														
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設		(仮称)緑瀬川左岸広場公園	草加市	直	A=3.6ha	19	21	19	21	6,313	6,313	6,313		6,313
		(仮称)神明シティスポット／おせん公園	草加市	直	—	17	21	17	21	145	145	145		145
		道しるべ設置事業	草加市	直	—	18	21	18	21	107	107	107		107
		歴史散策路休憩スポット／あじさい公園	草加市	直	—	18	21	18	21	107	107	107		107
高質空間形成施設		(仮称)今様・草加宿歴史散策路	草加市	直	L=700m	17	21	17	21	262	262	262		262
		草加駅東口駅前広場バリアフリー化整備	草加市	直	—	18	18	18	18	25	25	25		25
高次都市施設														
既存建造物活用事業														
都市再生交通拠点整備事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
人にやさしいまちづくり事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地 総合整備 事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
街なみ環境整備事業														
住宅地区改良事業等														
都心共同住宅供給事業														
公営住宅等整備														
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										6,872	6,872	6,872	0	6,872

..A

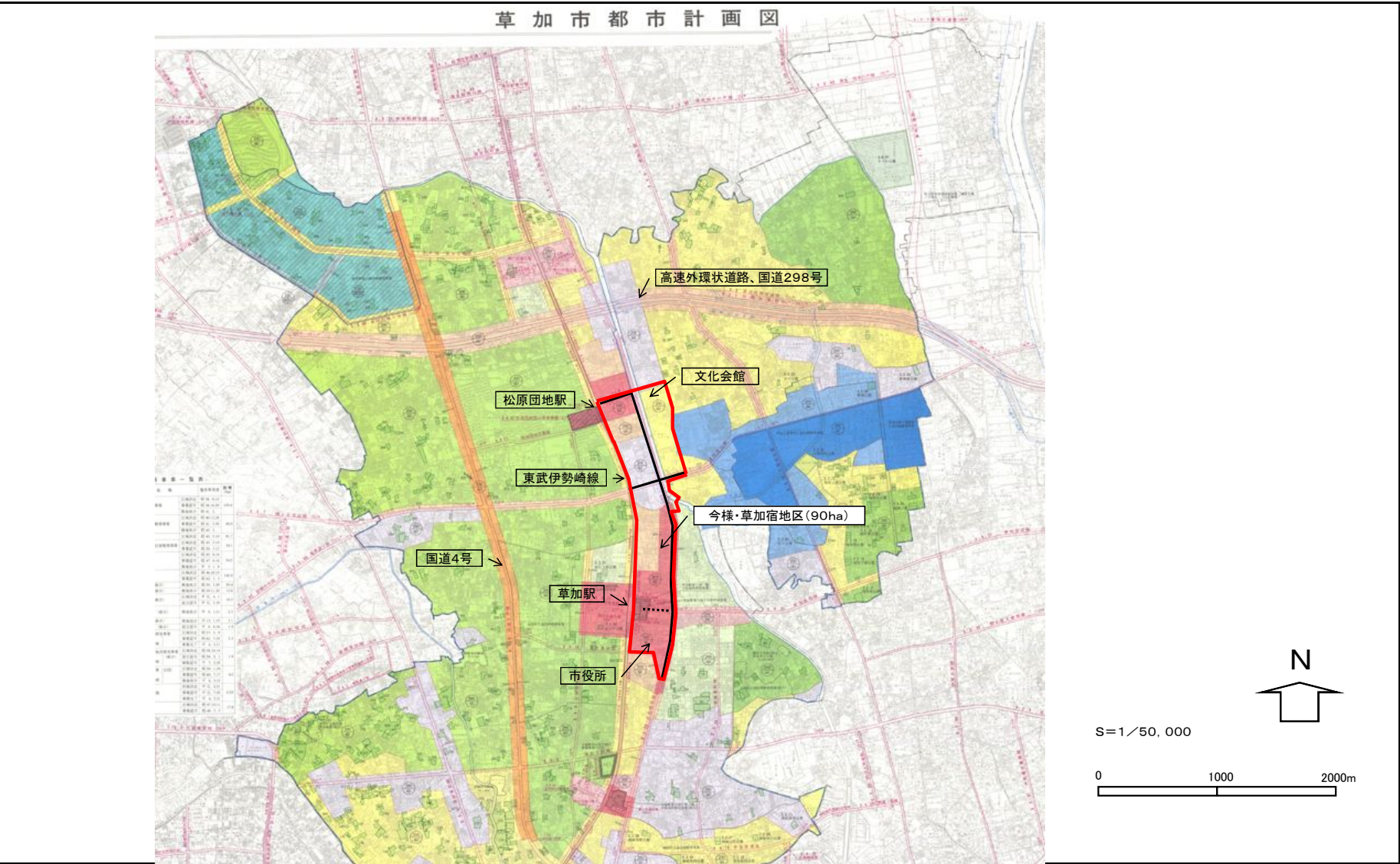
提案事業													
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	交付対象事業費	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分
地域創造支援事業	今様・草加宿エリアマップ作成	旧町地区、草加松原地区	草加市	直	14万部	17	21	17	21	7	7	7	7
事業活用調査	歴史的建物活用調査	旧町地区	草加市	直	—	17	17	17	17	7	7	7	7
	綾瀬川左岸地区基本計画策定調査	綾瀬川左岸地区	草加市	直	—	17	17	17	17	6	6	6	6
まちづくり活動推進事業	ライトアップ事業(社会実験)	草加松原地区	草加市	直	—	17	17	17	17	3	3	3	3
													0
合計										23	23	23	23
												合計(A+B)	6.895

..B

(参考)関連事業											
事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに○)				事業期間		全体事業費
					直轄	補助	地方単独	民間	開始年度	終了年度	
綾瀬川左岸護岸植栽事業	綾瀬川左岸地区	民間		A=2,600㎡				○	17	19	7
草加市景観計画・景観条例作成事業		草加市			○				18	20	4
合計											11

都市再生整備計画の区域

今様・草加宿地区(埼玉県草加市)	面積	90 ha	区域	高砂1丁目の一部、高砂2丁目、住吉1丁目、神明1丁目、神明2丁目の一部、栄町1丁目、栄町2丁目、松江1丁目の一部、松江2丁目の一部、松江3丁目の一部
------------------	----	-------	----	--



今様・草加宿地区(埼玉県草加市) 整備方針概要図

目標	歴史や文化、景観資源を活かした個性と活気にあふれた都市軸の賑わいの創出と魅力ある地域拠点の形成	代表的な指標	来街歩行者数	(人/12h)	256	(16年度)	→	300	(21年度)
			広場公園利用者数	(人/12h)	400	(16年度)	→	500	(21年度)
			満足度(印象)	(%)	36	(16年度)	→	43	(21年度)

